

平成 30 年度 議会による行政評価実施要項（原案）

〔取組の方針〕

- 平成 30 年度は、「いいだ未来デザイン 2028」の実績評価を行う初年度であり、行政評価の具体的手法については、基本構想基本計画特別委員会の調査研究に基づいて行う。
「いいだ未来デザイン 2028」においては、「目指すまちの姿（8 項目）」の実現に向けた 4 年間の基本目標（12 項目）が設定されていることから、議会として大局的な評価（森の評価）が重要である。基本目標については、全議員が共有する必要があるため、最初に全体会を実施し、マネジメントリーダー（部局長）から「戦略計画の自己評価」の説明を受ける。

1 目的

飯田市自治基本条例第 22 条に基づき、議会による行政評価を行い、市の執行機関の活動を監視、評価することにより、適正な行政運営の確保に努める。これにより、議決事件とした基本構想基本計画の進行管理に関与し、議会としての責任を果たす。

2 基本方針

「いいだ未来デザイン 2028」の進行管理のため、議会として、平成 29 年度戦略計画について基本目標ごとに検証をするとともに、執行機関側に対して提言を行う。

3 実施計画

(1) 基本的考え方

① 位置付け

行政評価は、各常任委員会における「閉会中の所管事務調査」として実施する。
(6 月定例会において閉会中の継続調査として位置づける。)

② 実施体制

行政評価の実施体制は、原則として 3 つの常任委員会が各基本目標を分担して行政評価を行うものとし、基本目標のマネジメントリーダーが所属する常任委員会が担当する。ただし、複数の委員会に関連する基本目標については、合同会議を開催することとする。

③ 評価

ア 「いいだ未来デザイン 2028」に掲げられた 4 年間の基本目標（12 項目）の進捗状況については、「戦略計画の自己評価」の説明を全議員で共有するため、最初に全体会を実施し、マネジメントリーダー（部局長）から説明を受ける。

イ 評価対象は、「いいだ未来デザイン 2028」の基本目標（12 項目）を基本とし、年度戦略（55 項目の小戦略）を中心に評価する。ただし、委員会の調査研究事項としているものについては、事前に各常任委員会で決定し、ステップ 1 において当事者目標（169 項目の評価シート）や分野別計画の説明を受けるものとする。

ウ 議会としての評価（「計画は適正か」「取組は良かったか」「時代や状況変化に対応しているか」「進捗状況確認指標は適正か」「取組は的を射ているか」等）を行い、提言をまとめる。

※事務事業を抽出しての行政評価は実施しない。（決算審査において対応）

(2) 具体的な取り組み

①事前準備

- ・基本目標（12項目）と年度戦略（55項目の小戦略）の説明以外で、委員会の調査研究事項のために説明が必要になる「分野別計画」や「当事者目標（169項目の評価シート）」については、6月定例会の各常任委員会で決定し、事前に執行機関側へ通知する。

②ステップ1「成果説明」 7月19日(木)、20日(金)

- ・「いいだ未来デザイン2028」の基本目標（12項目）と年度戦略（55項目の小戦略）について、執行機関側の評価の説明を受け、必要な質疑を行う。また、個々の議員の認識を同じにするため、必要に応じて議員間自由討議を実施し、評価・課題等について共有化を図り、必要な質疑を行う。
- ・**最初に全体会を実施**し、4年間の基本目標（12項目）の進捗状況については、マネジメントリーダーから「基本目標 評価シート」で説明を受け、**全議員で共有**する。
- ・**年度戦略（55項目の小戦略）については、常任委員会ごとにマネジメントリーダーもしくは主管課長から「年度戦略（小戦略） 評価シート」で説明を受ける。**
- ・**複数の委員会に関連する基本目標については、合同会議の形式により説明を受ける。**
※議員間自由討議を活用する。

③ステップ2「戦略計画に対する個々の議員による評価」 7月27日(金)

区分	評価基準（案）
【評価】	(1)執行機関側の最終的説明に対する評価 (評価項目は執行機関側の評価基準に沿った項目で設定する) (2)課題等の抽出
【提言】	取組に対する考察 (1)評価で上がった課題等に関し、意図や目的に対する意見、市民の声を反映した意見、議会としての視点や発想による方向性など、30年度以降の「戦略計画」の取組に生かすべき点を提案する。
※基本目標ごとに「戦略計画の自己評価」の説明を受け、議会としての評価 ①計画は適正か ②取組は良かったか ③時代や状況変化に対応しているか ④進捗状況確認指標は適正か ⑤取組は的を射ているか 等 を行い、提言をまとめる。 * 「基本構想基本計画特別委員会 調査研究報告」課題①検討結果(1)より	

④ステップ3「意見集約」 8月1日(水)、2日(木)

- ・上記③の「個々の議員による評価」を持ち寄り、委員会としての意見を集約する。
〔※戦略計画の「主な取組」に掲げられている事務事業については、戦略計画の取組についての提言であることから、個別事務事業に対するの評価・提言は行わない。
あくまでも戦略計画の取組の中での事業の扱いとする。〕
- ・合同会議を8月2日(木)に実施し、意見の取りまとめを行う。(所管委員会の委員長が進行)
- ・意見があれば、期日までに各常任委員長へ提出する。

⑤ステップ4「全体会（全員協議会）での検討経過確認」 8月22日(水)

- ・各常任委員会での検討の経過について、全員協議会（第3回定例会前）で委員長が報告し、全体で確認する。

⑥ステップ5「決算報告の委員会審査及び全体会での確認」 9月10日(月)～20日(木)

- ・⑤ステップ4の意見を踏まえ、各常任委員会の意見(提言内容)の確認を行う。
- ・委員長会及び全体会を実施し、提言内容の調整と共有を図る。

⑦ステップ6「提言と進行管理」 9月21日(金)

- ・9月定例会本会議(最終日)において、各委員会からの提言を所管事務の報告で行い、閉会後に議長から市長に対し提言を行う。
- ・正副委員長において、所管する部長へ提言についての説明を行う。
- ・「戦略計画」に対する提言への対応は、31年第1回定例会において説明を受ける。

⑧当年度反省、次年度計画

- ・提言書提出後、31年度以降の行政評価の具体的手法の集約
- ※委員長会 ⇒ 代表者会 ⇒ (会派) ⇒ 議会運営委員会

(3) 日程

資料提供 一式 企画課 → 議会事務局 7月9日(月) [※7/9の週で調整中]

区 分	日 程(予定)
ステップ1(全体会、合同会議、各常任委員会)	7月19日(木:全委員会) 7月20日(金:全委員会)
ステップ2(各委員 シート提出期限)	7月27日(金)
ステップ3(各常任委員会協議会、合同会議: 評価集約)	8月1日(水) 8月2日(木:合同会議)
ステップ4(全体会(全員協議会))	8月22日(水) 執行機関側 同席
ステップ5(第3回定例会 各常任委員会、 委員長会、全体会)	9月10日(月)～18日(火) 委員会 9月19日(水) 委員長会、全体会 9月21日(金) 閉会日全協
ステップ6(提言)	9月21日(金)

※「事務事業実績評価表」(約400事業)の扱い:

決算審査の資料として、事前に執行機関から「事務事業実績評価表」のデータ(CD-ROM)の提供を受け、全議員へ配布する予定です。(7月上旬～中旬)

別途、「主要な施策の成果説明書」として印刷物も配布されます。(決算認定資料:第3回定例会の議案と同時に配布)

行政評価のスケジュールイメージ

STEP	日程	区分	内容	説明者等	備考
1	7月19日(木)午前	全体会(全協)	基本目標評価の説明(12項目)	マネジメントリーダー	※基本目標 12×15分=180分 (質疑含めて15分程度)
	7月19日(木)午後	合同会議・委員会	年度戦略(小戦略)評価の説明 ◇合同会議: 総務(4)+産建(11)=合同(15) ◇単独: 総務(14)、社文(22)、産建(4)	小戦略主管課長	合同会議(総務+産建=15)と 委員会(社文 22)を平行開催 ※合同会議は所管委員会の委員 長が進行
	7月20日(金)	委員会		小戦略主管課長	※小戦略 × 各15分程度
2	7月27日(金)	各議員	各委員シート提出期限		
3	8月1日(水)	委員会	委員会における評価集約		
	8月2日(木)	合同会議	合同会議における評価集約		所管委員会の委員長が進行し、取 りまとめる
4	8月22日(水)	全員協議会	評価集約内容の協議	各委員会委員長	
5	9月10日(月)～ 9月18日(火)	委員会	決算審査に合わせて事務事業評価	課長	
	9月19日(水)	委員長会	事務事業への意見集約		
	9月20日(木)	委員長会	事務事業への意見集約		必要な場合
6	9月21日(金)	全員協議会(閉会日)	市長への提言		

1)当事者目標評価は参考資料として扱うが、執行機関側の説明を受ける必要がある事項がある場合は、各常任委員会で決定したものを事前に指定し、ステップ1において説明を受ける。

基 本 目 標		マネジメントリーダー	小戦略主管課	担当委員会
1	若者が帰ってこられる産業をつくる	産業経済部長	①、②工業課、③産業振興課、④工業課	産業建設
2	飯田市への人の流れをつくる	産業経済部長	①、②ふるさと定住支援課、③観光課、④IIDAブランド推進課、⑤商業・市街地活性化課	○産業建設・総務
3	地育力が支える学び合いで、生きる力をもち、心豊かな人材を育む	教育次長	①、②、③、④学校教育課、⑤公民館	社会文教
4	自然と歴史を守りいかし伝え、新たな文化をつくりだす	教育委員会参事	①美術博物館、②生涯学習・スポーツ課、③文化会館、④、⑤生涯学習・スポーツ課	社会文教
5	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	健康福祉部長	①、②、③子育て支援課、④福祉課	社会文教
6	「市民総健康」と「生涯現役」をめざす	健康福祉部長	①保健課、②長寿支援課、③、④、⑤保健課	社会文教
7	共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる	健康福祉部長	①福祉課、②長寿支援課、③福祉課	社会文教
8	新時代に向けたこれからの地域経営の仕組みをつくる	市民協働環境部長	①、②ふるさと定住支援課、③ムトスまちづくり推進課、④ふるさと定住支援課	総務
9	個性を尊重し、多様な価値観を認め合いながら、交流する	市民協働環境部長	①男女共同参画課、②、③ムトスまちづくり推進課、④男女共同参画課	総務
10	豊かな自然と調和し、低炭素なくらしをおくる	市民協働環境部長	①環境課、②、③、④環境モデル都市推進課、⑤、⑥環境課	総務
11	災害に備え、社会基盤を強化し、防災意識を高める	建設部長	①、②、③危機管理室、④土木課	○総務・産業建設
12	リニア時代を支える都市基盤を整備する	リニア推進部長	①リニア整備課、②国県リニア事業課、③地域計画課、④、⑤リニア推進課、⑥IIDAブランド推進課	○産業建設・総務

いいだ未来デザイン2028戦略計画

【平成29(2017)年度】

- 1 若者が帰ってこられる産業をつくる
 - 1-① 「新たな産業振興の拠点」の形成
 - 1-② 新たな産業分野、地域産業の高付加価値化への挑戦
 - 1-③ 地域産業の担い手確保
 - 1-④ 企業用地の整備と戦略的な企業誘致の推進

- 2 飯田市への人の流れをつくる
 - 2-① 飯田だから実現できるライフスタイルの提案
 - 2-② 【再掲】ふるさとパワーアップ！20地区の個性を輝かせる(20地区「田舎へ還ろう戦略」支援事業)
 - 2-③ 「結いのまち」飯田においでなんしょ
 - 2-④ 地域ブランドの構築と飯田の魅力が伝わるプロモーション
 - 2-⑤ 魅力的な中心拠点の形成

- 3 地育力が支える学び合いで、生きる力をもち、心豊かな人材を育む
 - 3-① 飯田らしい小中連携・一貫教育の推進
 - 3-② 地域と学校がつながる飯田コミュニティスクールの立ち上げと推進
 - 3-③ LG(地域・地球)飯田教育の充実
 - 3-④ ICTを活用した教育課題への対応
 - 3-⑤ 高校生を対象とした地域人教育の推進

- 4 自然と歴史を守りいかにし伝え、新たな文化をつくりだす
 - 4-① 「伊那谷の自然と文化」への玄関口 飯田市美術博物館の魅力度アップ
 - 4-② 国指定の史跡名勝の保存・整備・活用
 - 4-③ 人形劇の世界都市としての推進力・求心力の向上
 - 4-④ 「地域振興の知の拠点」の形成に向けた取組みの推進
 - 4-⑤ 遠山郷の魅力の顕在化と情報発信

- 5 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
 - 5-① 信頼と絆で応援、健康な子育てのまちづくりの推進
 - 5-② すべての子どもの安心と希望の実現(子どもの貧困対策)
 - 5-③ 「飯田版！上質な子育て環境」づくり
 - 5-④ 結婚したいと思う若者へのライフデザイン支援

- 6 「市民総健康」と「生涯現役」をめざす
 - 6-① 地域、家族とともに進める健康づくり
 - 6-② 介護予防の推進
 - 6-③ みんなで食べよう楽しい食事(食育の推進)
 - 6-④ 歩こう動こう プラステン(+10分)
 - 6-⑤ 歯と口の健康づくり

- 7 共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる
 - 7-① 多様な主体による日常生活における支援
 - 7-② 認知症の人とその家族を支援する連携機能の充実
 - 7-③ 地域とともに創る障がい児・者との共生社会の実現

- 8 新時代に向けたこれからの地域経営の仕組みをつくる
 - 8-① ふるさとパワーアップ！20地区の個性を輝かせる(20地区「田舎へ還ろう戦略」支援事業)
 - 8-② 地域課題に対応するための事業体の立ち上げと運営の支援
 - 8-③ 地域自治を守り育むための仕組みづくり
 - 8-④ 中山間地域をもっと元気に見まいか

- 9 個性を尊重し、多様な価値観を認め合いながら、交流する
 - 9-① 誰もが安心して地域で活躍できる、ひと・まちづくり
 - 9-② 市民活動団体のパワーアップ！
 - 9-③ 共生のためのユニバーサルデザイン
 - 9-④ 多様性を地域に活かす言語バリアフリー

- 10 豊かな自然と調和し、低炭素な暮らしをおくる
 - 10-① 環境意識を醸成する人づくり地域づくり
 - 10-② 再生可能エネルギーで進める持続可能な地域づくり
 - 10-③ リニア時代を見据えた低炭素な地域づくり
 - 10-④ 地域ぐるみで取り組むエコ活動・エコライフの推進
 - 10-⑤ ユネスコエコパークから広がる森と動植物の保全
 - 10-⑥ リニア時代を見据えた生活環境保全

- 11 災害に備え、社会基盤を強化し、防災意識を高める
 - 11-① 命と生活を守る市民防災力の向上
 - 11-② みんなが安心して暮らせる防災・減災のまちづくり
 - 11-③ 緊急・災害時の情報伝達や収集機能の向上
 - 11-④ 災害時にも都市機能が維持できる社会基盤の戦略的強靱化

- 12 リニア時代を支える都市基盤を整備する
 - 12-① 「信州・伊那谷の個性で世界を惹きつけ、世界へ発信する玄関口」としてのリニア駅周辺の整備
 - 12-② 駅勢圏(駅の利用が見込まれる地域)拡大に向けた道路ネットワークの強化
 - 12-③ リニア時代を見据えた土地利用計画の策定
 - 12-④ リニア事業に関連する社会基盤の整備
 - 12-⑤ リニアの二次交通の構築及び持続可能な地域公共交通の実現
 - 12-⑥ リニア時代を見据えたICTの活用とその基盤の整備

基本目標 2

飯田市への人の流れをつくる

<戦略 (考え方) >

- ◆ リニア中央新幹線の開業や三遠南信自動車道の全線開通による新しい交通網時代を見据え、世界に誇れる多様なライフスタイルの提案により、移住者の増加を目指します。
- ◆ この地域を訪れる人を増やすため、国内外から多くの人を惹きつける魅力づくりに取り組みます。
- ◆ 地域の魅力をさらに磨き上げて地域ブランドを構築するとともに、地域の魅力をプロモーションします。
- ◆ リニア中央新幹線長野県駅を見据えたまちづくりにおける、中心拠点としての中心市街地の魅力づくりを推進します。

<進捗状況確認指標>

指標(単位) 把握方法	基準値	実績値				目標値
	2014 (H26)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)	
休日滞在人口率 休日等に2時間以上滞在した人口	1.44 倍				1.50 倍	

・基準値 2014 (H26)は、平成 26 年度に把握した数値とし、「まち・ひと・しごと創生本部 地域経済分析システム『リソース』」による休日等に2時間以上、市内に滞在した人口の数値

<総合戦略における重要業績評価指標 (KPI) >

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値					目標値
	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	
移住した子育て世帯の総人数	21 人 (24~26 年度 平均値)	21 人	22 人			35 人	
農ある暮らしを目的とした移住者数	-	-	2 人			8 人※	
南アルプスエリアを訪れた観光客数	220,000 人	225,000 人	214,000 人			233,000 人	
体験プログラム年間参加者数	36,000 人	36,000 人	48,800 人			50,000 人	
天龍峡ご案内人が案内した観光客数	3,866 人 (H25)	7,117 人	6,443 人			6,000 人	
新産業団地への立地企業における新たな雇用者	-	-	-			80 人※	
学輪 IIDA との連携によるプロジェクト数	9 件	9 件	10 件			13 件	
学校が楽しいと感じている児童生徒の割合	小学校 83.3% 中学校 80.5%	小学校 87.7% 中学校 83.3%	小学校 85.9% 中学校 81.1%	小学校 83.3% 中学校 77.7%		小学校 90.0% 中学校 90.0%	

学習支援事業に参加している参加者の満足度	88.1%	91.4%	92.5%			70.0%
ふるさとに愛着を感じている高校生の割合	75.6% (H27)	3年間に1回の指標 (H27と同様)				78.0%

※31年度までの累計

[参考]

＜市民意識調査の結果＞ など

〇〇〇〇の割合 〇〇%

＜29年度戦略（具体的な取組）＞

- ① 飯田だから実現できるライフスタイルの提案
(ふるさと定住支援課／産業振興課、農業課、子育て支援課、学校教育課、生涯学習・スポーツ課、IIDAブランド推進課)
- ② 【再掲】ふるさとパワーアップ！20地区の個性を輝かせる(20地区「田舎へ還ろう戦略」支援事業)
(ふるさと定住支援課／ムトスマちづくり推進課、企画課)
- ③ 「結いのまち」飯田においてなんしょ
(観光課／農業課、IIDAブランド推進課)
- ④ 地域ブランドの構築と飯田の魅力が伝わるプロモーション
(IIDAブランド推進課／産業振興課、観光課、農業課、企画課、文化会館、生涯学習・スポーツ課)

□これまでの成果

視点

- ・未来ビジョン及び基本目標に掲げた地域の姿に近づくことができたか。
- ・現場や地域の力を巻き込めたか。
- ・新たな発想や工夫した点は何か。

□取り巻く状況の変化、今後の変化の予想

- ・市民意識調査の結果や社会経済情勢などから今後の変化について記載する。

□今後の変化を見据えたときの課題

- ・今後の課題を記載する。

□今後の方向性

- ・今後の課題への対応策・方向性を記載する。
- ・新たな発想で工夫する点は何か。

□成果を表す特徴的な事例

- ・県内19市中〇〇位や近隣市町村との比較など。
- ・グラフ、図、写真等を用いて成果を見える化する。

基本目標 1

若者が帰ってこられる産業をつくる

<29 年度戦略（具体的な取組）>（小戦略）

① 「新たな産業振興の拠点」の形成

- ◇旧飯田工業高校施設に（公財）南信州・飯田産業センターを移転するとともに、公的試験場機能を高めて、関係機関と連携しながら様々な「知」が集積する産業振興の拠点を整備します。そのために、旧飯田工業高校の施設改修工事を南信州広域連合から事務の委託を受けて実施します。
- ◇旧飯田工業高校施設を活用して実施される信州大学航空機システム共同研究講座を支援し、将来的な高等教育機関への移行を意識し、航空機分野において世界に通用する高度な人材育成につなげます。
- ◇公的試験場機能の試験検査評価機器を有効に活用し適切な運用ができるよう体制の構築と必要な人材育成のための取り組みを実施します。

主管課／主な関係課

工業課／企画課、地域計画課、財政課

□これまでの成果

視点

- ・未来ビジョン及び基本目標に掲げた地域の姿に近づくことができたか。
- ・現場や地域の力を巻き込めたか。
- ・新たな発想や工夫した点は何か。

□取り巻く状況の変化、今後の変化の予想

- ・市民意識調査の結果や社会経済情勢などから今後の変化について記載する。

□今後の変化を見据えたときの課題

- ・今後の課題を記載する。

□今後の方向性

- ・今後の課題への対応策・方向性を記載する。
- ・新たな発想で工夫する点は何か。

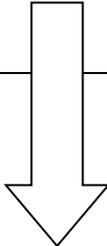
□成果を表す特徴的な事例

- ・県内 19 市中〇〇位や近隣市町村との比較など。
- ・グラフ、図、写真等を用いて成果を見える化する。

※上記の視点でその他の 29 年度戦略（具体的な取組）②、③、④を作成する。

- ② 新たな産業分野、地域産業の高付加価値化への挑戦
- ③ 地域産業の担い手確保
- ④ 産業用地の整備と戦略的な企業誘致の推進

基本目標：1 若者が帰ってこられる産業をつくる

② 新たな産業分野、地域産業の高付加価値化への挑戦			
<p>◇航空宇宙産業分野のほか、健康医療・食品産業・農林業などの各分野で、異業種が連携した新たな産業クラスターの形成を推進し、商品開発を推進するとともに、販路の拡大により外貨を獲得して、さらなる新分野への進出と雇用の拡大につなげます。</p> <p>◇地理的表示(GI) 保護制度に登録された市田柿をはじめとした世界に発信できる地域ブランド・地域産品の魅力を活かして、農畜産物の産地強化の支援や海外も視野に入れた新たなマーケットへの展開を推進します。</p>			
番号 (5)	<table border="1"> <tr> <td>主管課</td> <td>農業課</td> </tr> </table>	主管課	農業課
主管課	農業課		
<p>当事者目標</p> <p>ア. 何を</p> <p>イ. いつまでに</p> <p>ウ. どのような状態にする</p>	<p>ア 農畜産物の産地強化・新マーケット開拓</p> <p>イ 年度中</p> <p>ウ 生産基盤の強化を図るとともに、三遠南信の地域連携等による海外マーケット展開の取組等、販路拡大を推進する</p>		
中間評価	① 平成 29 年度上半期における進捗状況の整理		
	② 下半期、来年度に向けた方向性、展開方法	平成 29 年 9 月中間評価時に記載済み	
	③ ②における課題・問題点		
年度末評価	④ 29 年度の評価 (当事者目標のイ、ウに対する) 成果と課題	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">年度末評価を記載</div> 	
	⑤ 対応策や方向性		

基本目標	2 飯田市への人の流れをつくる
戦略 (考え方)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ リニア中央新幹線の開業や三遠南信自動車道の全線開通による新しい交通網時代を見据え、世界に誇れる多様なライフスタイルの提案により、移住者の増加を目指します。 ◆ この地域を訪れる人を増やすため、国内外から多くの人を惹きつける魅力づくりに取り組みます。 ◆ 地域の魅力をさらに磨き上げて地域ブランドを構築するとともに、地域の魅力をプロモーションします。 ◆ リニア中央新幹線長野県駅を見据えたまちづくりにおける、中心拠点としての中心市街地の魅力づくりを推進します。

進捗状況確認指標

指標(単位) 把握方法	基準	進捗			目標
	H28	H29	H30	H31	H32
休日滞在人口率 休日等に2時間以上滞在した人口	1.44	-	-	-	1.50

29年度戦略(具体的な取組)

① 飯田だから実現できるライフスタイルの提案
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 移住者の相談から定住を支援するための仕組みや体制を構築し、農ある暮らしなど飯田の魅力を発信しながら、飯田だから実現できるライフスタイルを提案します。 ◇ 自然豊かな環境や地域住民との交流を通し、テレワーク型の働き方や地域資源を活用した起業など、暮らしや仕事、学びを実践しやすい地域として、世界から関心を集めて交流人口を増やします。 ◇ 飯田の資源や人材を活用し、地域と連携した自然型保育やグローバルな視点を育む特色ある教育活動の展開により、飯田で子育てしたい移住者を増やします。
主管課/主な関係課
ふるさと定住支援課/産業振興課、農業課、子育て支援課、学校教育課、生涯学習・スポーツ課、IIDAブランド推進課

当事者目標 番号/A. 何を/I. いつまでに/U. どのような状態にする	取組のポイント	連携する主な団体 及び期待する役割
(1) A 移住相談から定住まで一貫して支援する仕組み I 年度末に U 市内横断PJ、市民や関係団体との連携により構築し、地域と一体となって移住希望者へ伝わる情報発信を行う	働く場所や住居の提供、お試し暮らしや移住体験者との交流など地域と連携した受け入れ体制を整え、相談から定住まで一貫した支援の実施と効果的な情報発信により移住・定住を促進する。	長野県、南信州広域連合(移住相談会の開催、広域的な情報発信) 市民、まちづくり委員会、移住体験者(移住希望者の受入支援) 飯田職業安定協会、飯田公共職業安定所、各種産業団体(就労場所の提供)

(2)	<p>ア 農ある暮らし等飯田ならではのライフスタイルの実現</p> <p>イ 年度中</p> <p>ウ 「モデル地区」の設定と「お試し住宅」の整備・活用による移住希望者の受入れを進める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内移住定住PJ・受け入れ態勢の検討 ・生活環境や支援制度メニューの情報発信 ・「お試し住宅」の活用(市有施設) ・新たな民泊事業の検討 ・モデル地区の移住者確保の取組支援 ・ワーキングホリデー参加者受入れ・農家へのマッチング ・農業法人への就職を含めた新規就農への誘導 ・事業開始20周年を迎えるワーキングホリデーの検証と新たなスタート 	<p>下伊那農業改良普及センター(営農指導)</p> <p>各地区まちづくり委員会(受入環境整備)</p> <p>農業生産団体、農業委員会(連携)</p> <p>農家(営農指導)</p> <p>農業法人(受入れ)</p> <p>Iターン就農者、地域おこし協力隊(受入れ協力)</p>
(3)	<p>ア クリエイターや社会起業家等の外部人材</p> <p>イ 年度中</p> <p>ウ 飯田を拠点に、多様で専門的なワークショップを開催する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材が飯田に入るきっかけ(場)を定着させる ・外部人材の専門性と地域住民、資源が学び(ワークショップ等)を通じて混じり合い、イノベーションにつなげる 	<p>外部人材(専門性を持ち込む)</p> <p>地域住民(資源提供・共感・協働)</p> <p>地元企業(資源提供・共感・協働)</p> <p>若手企業家(受講者、参加者、移住候補者)</p>
(4)	<p>ア 宇宙留学サマーキャンプの参加対象</p> <p>イ 8月までに</p> <p>ウ 市内小学生に加え、中京圏に拡大する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域外の専門的な知見と地域内にある教育資源を活用したサマーキャンプの実施 ・子どもたちの「知的好奇心」や「夢」「創造性」等を育む ・市外参加者を募り、その評価検証等を通じて飯田らしい宇宙教育の構築につなげる 	<p>宇宙航空研究開発機構(JAXA)、信州大学、民間企業、南信州飯田おもしろ科学工房、飯田御月見同好会等(運営協力)</p>
(5) 再掲	<p>ア 「信州やまほいく」認定を</p> <p>イ 年度中</p> <p>ウ 公立保育園全園で取得する</p>	<p>・「信州やまほいく」認定を取得し、自然保育の認知度を高めるとともに、実践的研究を通じた、保育の質向上を図る。</p>	<p>地域の個人・団体(保育実践での連携)</p> <p>長野県(情報提供、研修の実施)</p>
(6) 再掲	<p>ア 飯田コミュニティスクールを推進するため</p> <p>イ 年度を通して</p> <p>ウ 多くの地域住民が参加できる学校支援活動を活性化させる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田コミュニティスクールの設立 ・学校支援ボランティア構築 ・公民館によるコーディネートで学校支援ボランティア募集、実践 ・コミュニティスクールに関する学習会開催 	<p>各コミュニティスクール(始動)</p> <p>まちづくり委員会(参画・応援)</p> <p>PTA等の団体(参画・応援)</p> <p>外部有識者(アドバイザー)</p>

当事者目標を実現する経費(該当する事務事業の総額)				(千円)	
当事者目標(番号)	事務事業名	主管課	当初予算事業費	当初予算一般財源	
(1)(2)	人材誘導事業	産業振興課	4,360	0	
(1)(2)	担い手確保・育成支援事業	農業課	61,577	4,614	
(1)(2)	農業振興センター事業	農業課	6,200	6,200	
(3)	リニア地域づくり推進事業	IIDAブランド推進課	9,646	9,646	
(4)	宇宙教育推進事業	生涯学習・スポーツ課	900	139	
(5)	公立保育所施設整備事業	子育て支援課	27,200	27,200	
(6)	飯田コミュニティスクール推進事業	学校教育課	252	252	
		計	110,135	48,051	

② 【再掲】ふるさとパワーアップ！20地区の個性を輝かせる(20地区「田舎へ還ろう戦略」支援事業)	
◇ 20地区の個性を輝かせる各地区の重点事業＝「田舎へ還ろう戦略事業」を実行するため、ふるさと納税を原資とした交付金を交付し支援します。	
◇ 地域の課題を抽出し解決方法を検討する中で、地域おこし協力隊、集落支援員、生活支援コーディネーター等の制度を活用した有効な支援策の研究を進めます。	
主管課／主な関係課	
ふるさと定住支援課／ムスまちづくり推進課、企画課	

当事者目標 番号／ア. 何を／イ. いつまでに／ウ. どのような状態にする	取組のポイント	連携する団体 及び期待する役割
(1) ア 地区指定のふるさと納税制度 イ 5月までに ウ 制度構築し、まちづくり委員会と連携して周知を図り寄附を募る	<ul style="list-style-type: none"> ・地区指定のふるさと納税の仕組みを構築 ・クレジット決済システムの導入 ・各地区への説明、協力依頼 ・各地区でもPRしてもらう。 ・各地区は、寄附者への御礼について、ファンづくりや交流に繋がるような内容を検討する。 	各地区まちづくり委員会
(2) ア 田舎へ還ろう戦略 イ 年度中 ウ 各地区で実施しながら、地域経営アドバイザー等の知見を活用し、各地区人口ビジョン達成に向けた課題を整理、次年度実行に向けた各地区重点戦略を構築する	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区との協議、連携、支援 ・田舎へ還ろう戦略の実施 ・寄附の情報は随時地区へ提供 ・交付金の交付 ・各地区は、ファンづくりや交流に繋がる御礼を実施する。 ・各地区は、継続的に情報提供するなどファンづくりに努める。 ・人口ビジョン達成に向けた地区課題等協議 ・モデル地区を設定 ・地域経営アドバイザーとの研究 ・必要な支援策の検討 	各地区まちづくり委員会
(3) ア 空き家の活用事例 イ 年度中 ウ 10件を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の抽出、調査、空き家バンクへの登録 ・購入、賃貸希望募集 ・調整、宅建協会依頼、相談 ・契約支援 	各地区まちづくり委員会 建築士会飯伊支部 宅建協会南信支部飯伊不動産組合 飯田市空き家情報バンク委員会

当事者目標を実現する経費(該当する事務事業の総額)				(千円)	
当事者目標(番号)	事務事業名	主管課	当初予算事業費	当初予算一般財源	
(1)(2)	20地区田舎へ還ろう戦略支援事業	ふるさと定住支援課	8,530	0	
(3)	総合的な空き家対策事業	ふるさと定住支援課	10,912	10,912	
		計	19,442	10,912	

③ 「結いのまち」飯田においてなんしょ

- ◇ まちなか、天龍峡、遠山郷エリアを中心とした飯田の観光資源の掘り起こしと磨き上げ、それに伴う地域の担い手の強化により、観光産業・観光地の競争力の向上を図るとともに、南信州圏域の広域連携によりこの地域固有の魅力ある観光プログラム(ツアー、お勧めコース等)を、官民連携して創造します。また、県・JRグループ・市町村等が連携して実施する「信州DC(デスクティネーションキャンペーン)」を観光振興のチャンスと捉え、積極的なPR活動により全国からの誘客を図ります。
- ◇ 地域の暮らしや文化に関心を持つ外国人旅行者に、地域の誇りと生きざまに接する「ほんもの体験」を提供し、体験型観光によるインバウンドを推進します。ターゲット国の研究を行いながら、民泊の受入れ農家、体験プログラムのインストラクター、関係団体等との連携を図り、外国人旅行者のニーズにあった観光プログラムを造成します。併せて、農家民泊の普及を図ります。
- ◇ ICT(情報通信技術)等を活用した旅行者動向や口コミ情報のデータ収集と調査分析を進め、効果的なプロモーション展開を図ります。
首都圏における飯田の情報発信拠点の活用等により、飯田の知名度の更なる向上に努めます。
観光ホームページやパンフレット等のご当地情報の充実、市民や旅行者によるSNS等を使った多面的でタイムリーな情報拡散を図り、飯田に訪れたい人々を増やします。
- ◇ 観光地域づくりの舵取り役でありプラットフォームとして、この地域の広域観光に関する戦略策定と、その戦略を実行する組織体制(南信州版DMO)の実現化に向けた(株)南信州観光公社の機能強化等の検討をします。

主管課/主な関係課

観光課/農業課、IIDAブランド推進課

当事者目標 番号/ア. 何を/イ. いつまでに/ウ. どのような状態にする	取組のポイント	連携する主な団体 及び期待する役割
飯田に興味を持って訪れる旅行者 ア イ 年度中 ウ 「信州DC」や首都圏の情報発信拠点を誘客のために積極的に活用して増加させる (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部住民と地域住民との交流ツアー等の拡充 ・大河ドラマを素材としたまちなか散策ツアーの造成 ・「信州DC」での情報発信・誘客活動 ・首都圏における飯田の情報発信拠点の活用や大手観光情報誌へのPR掲載活動 	飯田観光協会(情報発信、誘客活動等) (株)南信州観光公社(ツアー主催) 観光関連事業者(情報発信、誘客活動等) 信州キャンペーン実行委員会(情報発信、誘客活動等) 渋谷区(交流の場の提供) 品川区(交流の場の提供) (一社)しながわ観光協会(情報発信への支援) 品川区商店街連合会(交流への支援) 品川ブックカフェKAIDO(情報発信・交流) 銀座NAGANO(情報発信・交流)
ア 改築後の天龍峡温泉交流館の多様な機能と中心拠点としての役割 イ 年度中 ウ 効果的に活用して、天龍峡及び周辺エリアの周遊観光に結びつけて賑わいを創出する (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・山本地区(杵原学校)他、三遠南信沿線地区や観光施設との連携体制の構築 ・温泉交流館を中心拠点にして、エコバレー・今田平エリア他の立ち寄り処(食事、川下り舟、ラフティング、果物狩り等)の利用促進 	天龍峡観光案内所(情報発信、案内) 天龍峡ご案内人の会(ガイド) 飯田観光協会(情報発信、誘客活動) 観光関連事業者(誘客活動) (株)農耕百花(交流館運営) 天龍峡温泉観光協会(誘客活動) 天龍峡300万人会議(誘客活動)
ア 遠山郷の観光を切り口にした地域振興策 イ 年度中 ウ 道の駅遠山郷を核にした地域活性化に向けた計画策定を進め、地域の合意形成を図る また、移住定住促進に向けた遠山郷の若者の思いを実現するプロジェクト事業の支援策を推進する (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅遠山郷を核にした地域活性化に向けた計画策定及び地域の合意形成 ・地域の若者発想による外から人を呼び込むための支援と、地域の観光地づくりに向けた機運の醸成 	遠山郷8団体連絡会(連絡調整) 遠山郷の若者グループ(プロジェクトの推進) 遠山郷観光協会(プロジェクトの支援) 和歌山大学(調査・分析・提案) 地域おこし協力隊(プロジェクトの推進)

(4)	ア	インバウンド観光への適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> 外国人旅行者のニーズを的確に捉えた観光プログラムの提供 受入れ農家を対象とした外国人旅行者対応研修の実施 ロンドンビジネススクール(LBS) Japan Trekにおける体験型観光の評価調査を参考にしたインバウンド戦略の検討 	飯田観光協会(情報発信、誘客活動) ㈱南信州観光公社(農家民泊の運営) 農家民泊受入れ農家(農家民泊経営)
	イ	年度中		
	ウ	外国人向けの観光プログラムの開発を行い、農家民泊を普及する		
(5)	ア	観光に利用しやすいWi-Fi環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 飯田駅観光案内所、まちなかインフォメーションセンター、天龍峡観光案内所の3施設に設置 	飯田観光協会(案内所の運営) 天龍峡温泉観光協会(案内所の運営)
	イ	年度中		
	ウ	外国人旅行者や若者世代の旅の利便性を高めるインフラ環境の検討		
(6)	ア	㈱南信州観光公社の機能強化策について	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携DMOによる観光地域づくりに向けた備えるべき機能と組織形態、運営方法等を関係機関・団体等と協議 	㈱南信州観光公社(DMO運営主体) 飯田観光協会(DMO運営支援) 南信州広域連合(DMO運営支援) 南信州観光連携プロジェクト(研究・提言) 観光関連団体(連携・協働)
	イ	年度中		
	ウ	素案を作成する		

当事者目標を実現する経費(該当する事務事業の総額)				(千円)	
当事者目標(番号)	事務事業名	主管課	当初予算事業費	当初予算一般財源	
(1)(4)(5)(6)	観光誘客推進事業	観光課	20,848	20,848	
(1)	エコツーリズム推進事業	観光課	1,045	1,045	
(2)	天龍峡まちづくり支援事業	観光課	246,968	26,380	
(3)	遠山郷観光戦略プロジェクト事業	観光課	19,195	0	
		計	288,056	48,273	

④ 地域ブランドの構築と飯田の魅力が伝わるプロモーション	
<p>◇ シティプロモーション活動を推進するための庁内体制づくりや市民協働による体制づくりを進め、シビックプライドを醸成しながら市民や市外の発信力のある人材との関係を強化します。</p> <p>◇ 2027年のリニア開業を見据え、ブランディング事業とシティプロモーション事業とが連携し、飯田の知名度と認知度を向上させます。</p> <p>◇ 飯田の暮らしや自然・歴史・文化を背景とした既存の資源を磨き、地域の魅力を広く発信します。</p> <p>◇ 南信州・飯田フィールドスタディ等を通じて「学びの場 飯田」の価値を高めるとともに、学輪IIDAの人的ネットワークを活かした様々な教育・研究活動等の展開を通じて、当地域の学術研究機能を発信します。</p>	
<p>主管課／主な関係課</p> <p>IIDAブランド推進課／産業振興課、観光課、農業課、企画課、文化会館、生涯学習・スポーツ課</p>	

当事者目標 番号／ア.何を／イ.いつまでに／ウ.どのような状態にする	取組のポイント	連携する主な団体 及び期待する役割
(1) ア 飯田ランキングを多くの投票参加者を得て実施し イ 年度末まで ウ 結果の発信を通じて地域におけるシビックプライドを醸成する	<ul style="list-style-type: none"> ・シティプロモーションの市民サポーター、投票項目関係団体と連携しランキングのPRを行い投票参加を促進するとともに、結果の効果的な活用と発信を行う 	IIDAブランディングPJ(企画・結果の活用と発信) 市民サポーター(PR、発信) 投票項目関係団体(連携)
(2) ア シティプロモーションの市民サポーター(応援団) イ 年度末までに ウ 魅力発信の講座に参加してもらい、協働で情報発信を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・シビックプライドの醸成 ・魅力発信の講座の実施 ・市民協働による運営体制づくりとプロモーション活動の展開 	飯田観光協会(連携) IIDAブランディングPJ(情報発信) プロモーション活動に協力してくれる関係者(情報発信)
(3) ア 首都圏等のメディア関係者 イ 年度末までに ウ 飯田市の魅力をテレビや新聞、雑誌などのメディアで扱ってもらえるように営業活動を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏を中心としたメディアへの営業活動を実施する ・飯田観光協会等と連携してメディア関係者の招致や取材対応を行う 	飯田観光協会(連携) IIDAブランディングPJ(情報発信) プロモーション活動に協力してくれる関係者(営業活動)
(4) ア 飯田市の知名度・認知度を向上させるためのツール イ 年度末までに ウ 制作、更新、活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・プロモーションツールの開発 ・ソーシャルメディアの活用 ・飯田市徹底ガイド(別冊KURA)の発行 ・首都圏や中京圏を中心としたメディアへのプロモーション活動とツールの活用 	飯田観光協会(連携) IIDAブランディングPJ(アドバイス、活用) プロモーション活動に協力してくれる関係者(活用)
(5) ア IIDAブランドの核となる人形劇など20のコンテンツ イ 年間を通じて ウ 海外視点を取り込みながら、海外に向けて発信する	<ul style="list-style-type: none"> ・IIDAブランディングPJと連携し、多言語に対応し、クオリティの高いWebサイトを構築し運用する ・大学生と連携し、ソーシャルメディア活用した効果的な発信を行う ・発信コンテンツ関係団体等との調整を密にする。 	IIDAブランディングPJ(全体企画) 大学生(SNS発信) 発信コンテンツ関係団体(素材・情報提供)
(6) ア 新たな学習手法を導入した南信州・飯田フィールドスタディの学習プログラムを イ 年度中に ウ 関係者とともに構築し、実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある学習に向けたアクティブラーニング(能動的な学習)手法の積極的な導入 ・大学研究者や地域との連携による学習プログラムの策定と実践 	大学、大学研究者、学生(専門的な知見) 地域(経験、課題)

当事者目標を実現する経費(該当する事務事業の総額) (千円)				
当事者目標(番号)	事務事業名	主管課	当初予算事業費	当初予算一般財源
(1)(5)	リニア地域づくり推進事業	IIDAブランド推進課	9,646	9,646
(2)(3)(4)	シティプロモーション推進事業	IIDAブランド推進課	7,838	7,838
(6)	大学とのネットワーク構築事業	企画課	3,361	3,361
計			20,845	20,845

⑤ 魅力的な中心拠点の形成
<p>◇ リニア中央新幹線長野県駅を見据えた中心市街地の中心拠点としての魅力づくりを進めます。</p> <p>◇ まちの賑わいづくりやまち歩きを楽しんでもらうため、若者や市民参画の関係団体と連携して、各種イベント等を開催します。</p> <p>◇ 中心市街地の玄関口である飯田駅周辺のあり方を検討するため、飯田駅周辺プロジェクトを推進します。</p>
主管課／主な関係課
商業・市街地活性化課／観光課、ムトスマちづくり推進課、土木課、地域計画課、リニア推進課

当事者目標 番号／ア. 何を／イ. いつまでに／ウ. どのような状態にする	取組のポイント	連携する主な団体 及び期待する役割
<p>(1)</p> <p>ア 中心市街地の来訪者 イ 年度中 ウ まちなか誘導の様々な事業を効果的に実施することにより、日常・イベント時を問わず増加し、賑わいが形成される</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食系イベント丘のまちバルや親子連れのみちなか回遊促進事業丘の上さんぼ等を実施し、日常のリピーター増加を図る ・りんご並木歩行者天国、丘のまちフェスティバル等休日イベントを開催し、みちなかへの誘客を図る ・空き店舗の実態を把握し、起業・創業支援による空き店舗解消に取り組む 	<p>中心市街地活性化協会(事業支援)</p> <p>飯田丘のまちバル実行委員会(事業主体)</p> <p>丘フェス実行委員会(事業主体)</p> <p>りんご並木まちづくりネットワーク(事業主体)</p> <p>飯田中心商店街連合会(事業支援)</p>
<p>(2)</p> <p>ア JR飯田駅周辺 イ 年度中 ウ 課題の整理・将来像の検討を行い、リニア時代に向けた中心市街地の玄関口としての機能・役割分担を明らかにする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第3期中心市街地活性化基本計画策定検討に合わせて、講演会、勉強会を開催するなどして、多様な主体の参画により検討する ・飯田駅前商業施設の存続に向けた検討を行う 	<p>まちづくり委員会(検討)</p> <p>中心市街地活性化協会(検討)</p> <p>飯田中心商店街連合会(検討)</p> <p>NPOいいだ応援ネットイデア・南信州アルプスフォーラム(検討)</p> <p>飯田商工会議所(検討)</p> <p>飯田観光協会(検討)</p>

当事者目標を実現する経費(該当する事務事業の総額)				(千円)
当事者目標(番号)	事務事業名	主管課	当初予算事業費	当初予算一般財源
(1)(2)	中心市街地活性化事業推進事務	商業・市街地活性化課	8,463	8,463
(1)	りんご並木活性化事業	商業・市街地活性化課	2,495	1,595
計			10,958	10,058

指標補足事項
<p>●進捗状況確認指標</p> <p>・「休日滞在人口率」は、年度ごとの国勢調査人口に対する休日等に2時間以上、市内に滞在した人口の割合。基準(H28)の指標は、H26年度に把握した数値とし、「まち・ひと・しごと創生本部 地域経済分析システム『リサーチ』」による休日等に2時間以上、市内に滞在した人口の数値</p>

(図1)

